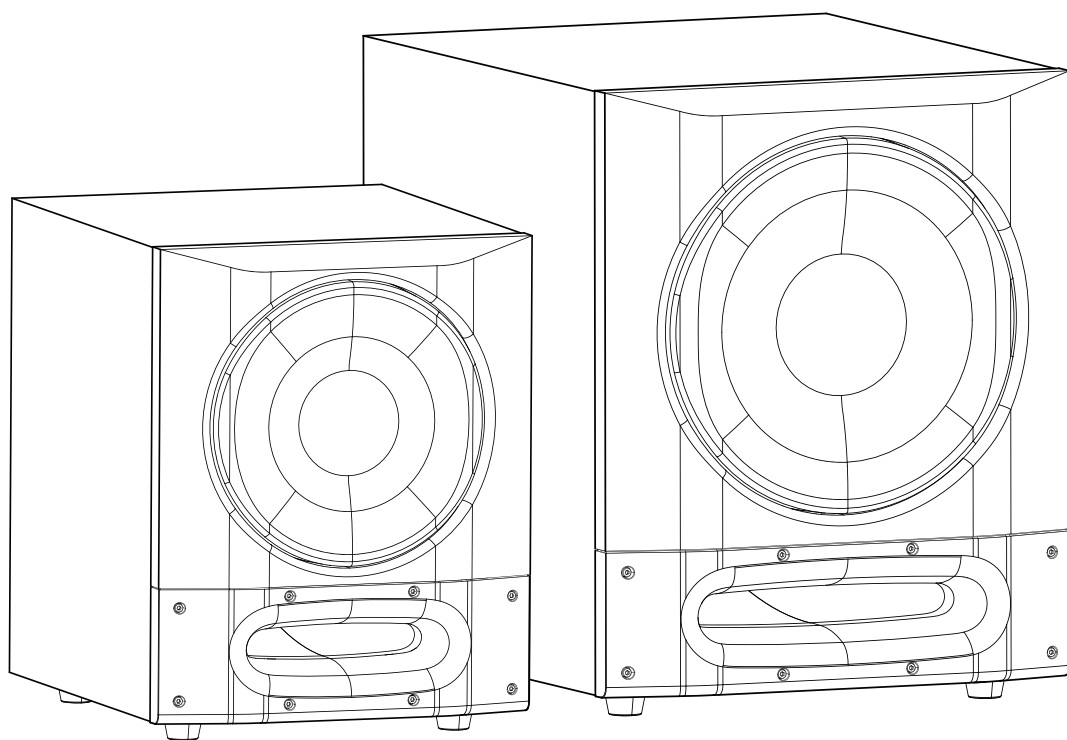


Sub8 PRO

Sub10 PRO

DSP内蔵アクティブ・サブウーファー
およびネットワーク接続機能



取扱説明書

 ADAM AUDIO

ようこそ！

ADAM Audioをお選びいただき誠にありがとうございます。

新しいサブウーファー・シリーズは、高度なDSP機能を搭載し、長年にわたって安心してお使いいただけるよう、最高水準の品質で製造されています。

製品を登録すると、通常2年間の保証期間を5年間に延長できます：
<https://www.adam-audio.com/my-adam/>

ベルリンより、心をこめて



Christian Hellinger
最高経営責任者

目次

1.	安全上の重要な注意事項	4
2.	概要と同梱品	6
3.	オーディオ入出力の選択	8
4.	動作モード	9
5.	ベース・マネージメント設定	10
6.	レベル設定	11
7.	サブウーファーの設置と位相設定	11
8.	キャリブレーションとネットワーク接続	12
9.	トラブルシューティング	14
10.	メンテナンス	14
11.	技術データ	15
12.	輸送時のご注意	15
13.	規制関連文書	15
14.	ノート	16

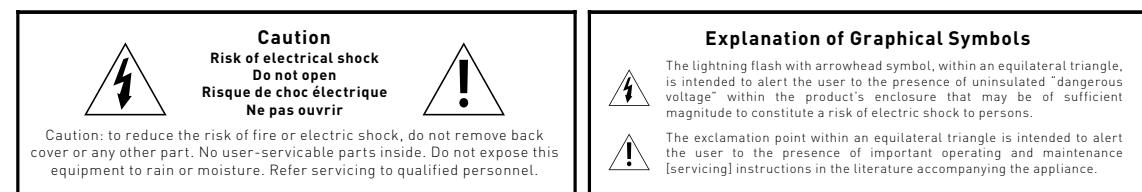
1. 安全に関する重要事項

本製品をご使用になる前に本マニュアルをよく読み、記載されている指示に従ってお使いください。

基本事項

システムをセットアップする前に、以下の安全上の注意事項をお読みください。
使用方法を後から確認できるように、本書は大切に保管してください。
記載されるすべての警告に注意し、指示に従ってください。

電気機器に関する注意事項



本製品および接続する延長ケーブルには、付属品と同等のアース付き3芯AC電源ケーブルを必ず使用してください。感電防止のため、アースを含む3芯すべてを使用してください。

- ヒューズを交換する際は、指定されたアンペア数および型以外のヒューズに交換しないでください。ヒューズは絶対にバイパスしないでください。
- 使用する電源の電圧が、指定電圧と一致することを確認してください。一致しない場合は、スピーカーを電源に接続しないでください。
- 本体にケーブルを抜き差しする、または本体を清掃するときは、必ずシステム全体の電源をオフにしてください。
- AC電源から完全に切り離すには、リアパネルの電源スイッチをオフにしてから、電源ケーブルを取り外してください。サブウーファーは電源コンセントの近くに設置し、必要に応じて電源プラグをすぐに抜けるよう、コンセントに簡単にアクセスできる場所に設置してください。
- 電源コードが踏まれたり、挟まれたりしないように保護してください。特に、プラグ、コンセント、機器との接続部に注意してください。
- 雷雨のときや、長期間使用しない場合は、電源プラグをコンセントから抜いてください。
- 電気機器は、必ずお子様の手の届かない場所に置いてください。
- 必ず点検済みのケーブルを使用してください。ケーブルに不良があると、サブウーファーが故障するおそれがあります。不具合のあるケーブルは、ハムやクラックルなど、さまざまなノイズの原因にもなります。
- 修理は必ず専門のサービス担当者に依頼してください。サブウーファー内部には、お客様ご自身で修理できる部品はありません。電源ケーブルやプラグが破損した、機器に液体がこぼれた、機器内部に物が入り込んだ、雨や湿気に機器をさらした、正常に動作しない、機器を落下させたなどの場合は、機器が故障している可能性があり、修理が必要です。

設置・移動時のご注意

- サブウーファーは重量があります。持ち上げる際は十分に注意し、移動は必ず2人以上で対応してください。
- 本製品の前面および背面には突起部があります。サブウーファーを前面または背面を下にして置かないでください。台車で移動させる際は、バランスを崩さないように十分ご注意ください。
- サブウーファーを寒い環境から暖かい環境に移動すると、結露が発生することがあります。製品を使用する前に、結露がなくなるまでしばらくお待ちください。
- 本製品は、室内でのみ使用してください。
- メーカーの指示に従って設置してください。
- サブウーファーは、十分に強度のある安定した場所に設置してください。固定や取り付けは推奨していません。
- 十分な冷却を確保するため、サブウーファーの背面の空気の流れを妨げないよう、壁から10 cm以上離して設置してください。
- ラジエーターや温風吹き出し口、ストーブなどの暖房機器、アンプなど、熱を発する機器の近くには設置しないでください。
- ドライバー・マグネットは、磁場を発生します。ハードディスクや磁気記憶媒体など、磁気に弱いものをサブウーファーに近づけないでください。

液体、化学薬品、使用環境

- 本製品を雨や湿気にさらさないでください。また、本製品を液体で濡らしたり、本体に液体を直接注いだり、こぼしたりしないでください。花瓶など、液体の入った容器をサブウーファーの上に置かないでください。
- 音響機器を清掃する際は、可燃性や引火性の薬品を絶対に使用しないでください。
- 本製品を極端に高温または低温の環境にさらさないでください。
- 本製品を直射日光の当たる場所に置かないでください。
- 爆発の危険がある環境で本製品を使用しないでください。
- 点火したロウソクなど、裸火を発するものをサブウーファーの上に置かないでください。
- 本製品は、海拔2000メートル未満の地域でのみ安全に使用できます。
- 本製品は、非熱帯気候の環境でのみ安全に使用できます。
- 新聞紙、テーブルクロス、カーテンなどで覆い、通気口や音響ポートを塞がないでください。
- 清掃には、糸くずの出ない乾いた布のみを使用してください。

健康上の注意事項

- 本製品は、85 dB(A)を超える音圧レベルを出力することがあります。高い音量レベルで使用する、聴覚障害を引き起こす可能性があります！音への暴露量は、音量レベルと暴露時間によって決まります。低い音量レベルで長時間使用する場合と、高い音量レベルで短時間使用する場合では、耳への負担が同程度になる場合があります。本製品の使用には注意し、高音量で使用する際はスピーカーに近づかないでください。
- 本製品は、ペースメーカーや植込み型除細動器に影響を与える恐れのある強力な磁場を発生します。
- 使用方法を後から確認できるように、本書は大切に保管してください。

2. 概要と同梱品

同梱品：

- サブウーファー
- 電源ケーブル
- クイック・スタート・ガイド
- 安全に関する注意書き

サブウーファー前面



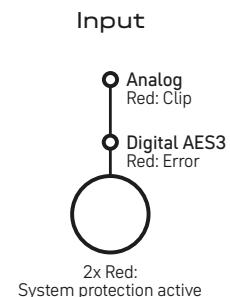
1. バスレフ・ポート
2. ウーファー
3. 金属製保護グリル

サブウーファー背面



1. Input (入力選択) – アナログ入力とAES3デジタル入力を切り替えます。
2. Mode (モード) – ワークフローやシステム構成に応じて適切なオプションを選択します。詳細は、4章をご参照ください。
3. Level (レベル) – サブウーファーのゲインを-18 dB～+6 dBの範囲で調整します。0 dBにはクリック感のあるノッチが設けられています。
4. Phase (位相) – 接続したスピーカーとの動作タイミング (極性) を調整します。
5. Bass Management (ベース・マネージメント) – 接続したステレオ・スピーカーに最適なサブウーファーのカットオフ周波数を調整します。
6. Bypass (バイパス) – フットスイッチ (付属していません) を使用して、ベース・マネージメントのオン/オフを切り替えます (ステレオ・モードのみ)。
7. Remote Control (リモート・コントロール) – RJ45イーサネット接続端子。ADAM Control (Mac/PC用ソフトウェア) の管理・キャリブレーション機能に使用します (8章を参照)。
8. Input (XLRアナログ入力端子) – オーディオ・インターフェースなどのソース機器から音声を入力します。右チャンネル入力端子「R」は、デジタル接続時にAES3入力としても機能します。
9. Output (XLRアナログ出力端子) – スピーカーへ音声を出力します。
10. AES3 Digital Output (AES3デジタル出力) – サテライト・スピーカーまたは追加のサブウーファーへデジタル音声を出力します。
11. IEC電源コネクター – AC電源に接続します。電源スイッチでサブウーファーの電源のオン/オフを切り替えます。

3. オーディオ入出力の選択



Inputボタンを押すと、アナログ入出力とAES3デジタル入出力が切り替わります。LEDにて、以下の状態を確認できます。

LED	インジケーター	ステータス・メッセージ	推奨される対処方法
アナログ入力	赤色で点滅	アナログ入力がかリップしています	ソース機器の出力レベルを下げてください。
AES3入力	赤色で点灯	AES3信号経路に問題があります。	ソース機器と接続したスピーカーを確認してください。また、AES3専用ケーブルを使用していることを確認してください。
アナログおよびAES3	赤色で点灯	システム保護機能が作動中	本体の電源をオフにしてから、ソース機器の出力レベルを下げてください。本機が高温になっている場合は、十分に冷めるまでお待ちください。

Sub8 PROおよびSub10 PROは、ステレオ・アナログ入出力を備えます。入力端子は、XLRおよび6.3 mm (1/4インチ) TRS接続に対応しています。出力端子は、XLRのみに対応します。これらの端子は、オーディオ・インターフェースやミキシング・コンソールから2.1 chシステム（ステレオ・スピーカーとサブウーファーで構成されるシステム）へステレオ信号を出力する用途に適しています。



オーディオ・インターフェースのLR出力をサブウーファーのLR入力に、サブウーファーのLR出力を左右のスピーカーに、それぞれ正しく接続してください。



バランス接続を確保するため、アースピンを備えたXLRケーブルまたはTRSケーブルを使用してください。これを守らないと、音質が低下するおそれがあります。

アナログ接続の代わりに、AES3デジタル入出力の使用も可能です。AES3は、1本の専用ケーブルで最大2チャンネル（通常はLR）のデジタル・オーディオ信号を伝送するためのプロフェッショナル向け規格です。信号をデジタルのまま伝送することで、不要なオーディオ変換を減らし、よ

り高音質かつ低レイテンシーを実現できます。

一般的なアナログXLR接続と比べて、AES3ケーブルは音質を損なうことなく長距離伝送を行います。



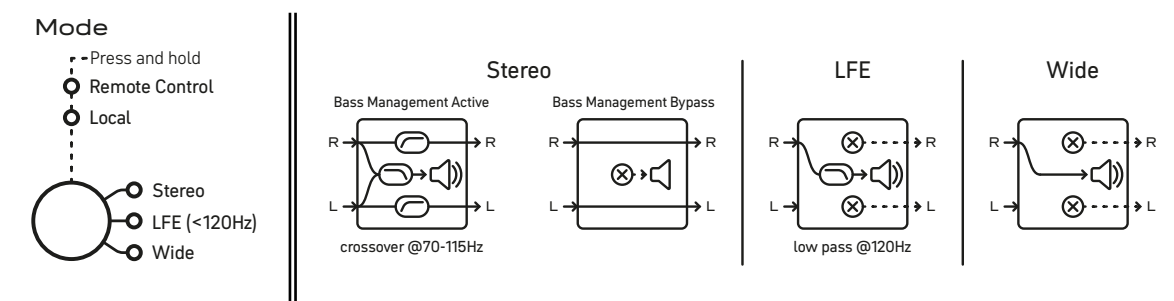
右のアナログ入力端子「R」は、AES3入力としても機能します。



オーディオ・インターフェースおよび接続するスピーカーがAES3接続に対応していることを確認し、AES3対応XLRケーブルを使用してください。

4. 動作モード

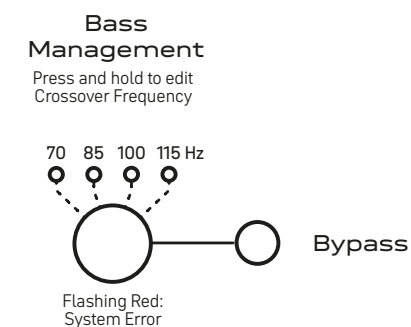
サブウーファーは通常、既存のスピーカー・システムに追加して、システムの低域再生を向上させるために使用します。Sub8 PROおよびSub10 PROは、スタジオやホーム・オーディオの用途に幅広くお使いいただけます。ご使用前に、4つの動作モードについて理解しておくことが重要です。ボタンを長押しすると、モードが切り替わります。Local（ローカル）モードは、リアパネルで本機を直接設定する場合に使用します。このモードを選択すると、ワークフローに応じて選択できる3つのオプションを利用できます。



- Stereo (ステレオ) モード**は、サブウーファーの初回起動時にデフォルトで選択されます。ソース機器からステレオ信号を出力し、2台のスピーカーへ送る標準的な2.1 chシステムに適しています。このモードでは、ベース・マネージメント・ボタンを使用して、サブウーファーとステレオ・スピーカー間のクロスオーバー周波数を設定できます。
- LFEモード**は、専用のLFEチャンネルを使用するシステム向けのモードです。ベース・マネージメントのクロスオーバー周波数は120 Hzに固定され、入力された音声信号は他の出力ヘルパーティングされません。
- Wide (ワイド) モード**では、サブウーファーがフルレンジ再生を行います。再生帯域は、Sub8 PROが26 Hz～300 Hz、Sub10 PROが21 Hz～300 Hzです。このモードは、ベース・マネージメントを他の機器で行うシステム、またはベース・マネージメントが不要なシステム向けに設計されています。

Remote Control（リモート・コントロール）モードでは、ネットワーク対応のADAM Audio製品専用ソフトウェア「ADAM Control」を使用して、サブウーファーの管理、キャリブレーション、設定の保存を行えます。Sonarworks SoundID Referenceとの連携にも対応しています。この設定を有効にすると、上記のローカル・モードよりもRemote Controlの設定が優先されます。詳細は、8章「キャリブレーションおよびネットワーク接続」を参照してください。

5. ベース・マネージメント 設定



リアパネルのBass Management設定では、サブウーファーと接続されたスピーカーのクロスオーバー周波数を調整できます。まずは85 Hzを基準に調整することをおすすめします。

クロスオーバー周波数を変更するには：

1. 現在選択されているクロスオーバー周波数が緑色に点滅するまで、ボタンを長押しします。
2. その後、ボタンを押すたびに、70 Hz、85 Hz、100 Hz、115 Hzの4つのクロスオーバー周波数が順に切り替わります。
3. 目的のクロスオーバー周波数を選択した後、しばらく待つとLEDの点滅が止まり、その周波数が有効になります。または、ボタンをもう一度長押しすると、選択した周波数がすぐに有効になります。

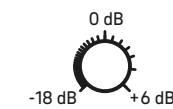
Bass Managementボタンを短く押すと、ベース・マネージメントのオン／オフを切り替えることができます。バイパス時は、Bass ManagementとPhaseのLEDが黄色に点灯し、サブウーファーが信号経路から完全にバイパスされていることを示します（トゥルー・バイパス）。このとき、入力信号はフル・レンジの信号としてスピーカーに送られます。

フットスイッチ（付属しません）を6.3 mm (1/4インチ)「Bypass」入力に接続することで、ベース・マネージメントのオン／オフを切り替えることもできます。ラッチ式フットスイッチが必要です。ADAM Audioチームが検証し、動作確認済みの機器は以下のとおりです。

メーカー	モデル
Boss	FS-5L フットスイッチ（ラッチ式）
Lead Foot	FS-1
Lead Foot	FS-2
Marshall	MR-PEDL90003

6. レベルのコントロール

Level



サブウーファーをお使いのシステムに組み込む目的は、全体のサウンドステージを向上させることであり、低音域を過度に強調することではありません。このような状態は、スピーカーとサブウーファーのレベルが適切に揃っていない場合によく起こります。**次の手順を参考に、スピーカーとサブウーファーのレベルを合わせることをおすすめします：**

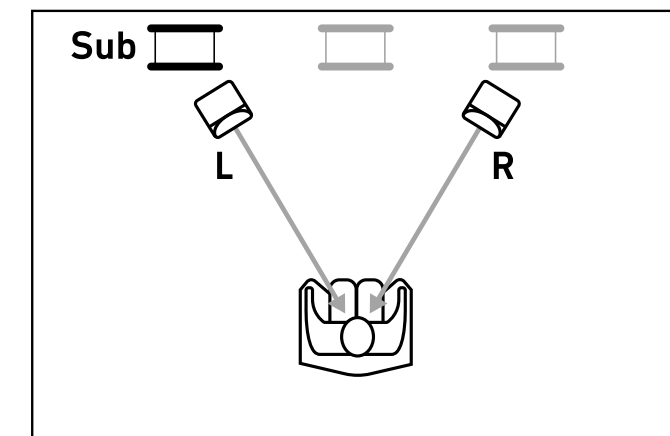
1. スピーカーを通常の音量に設定し、サブウーファーのLevelノブを最小（-18 dB）に設定します。
2. リスニング・ポジションに座り、低音成分が多く含まれた聴き馴染みのあるリファレンス・トラックを再生します。
3. 友人や同僚にLevelノブを操作してもらい、再生している音源が適度な厚みとまとまりが出るまで、サブウーファーの音量を徐々に上げます。
4. その後数日かけて耳が慣れてきたら、他のリファレンス音源も再生し、サブウーファーのレベルが適切かどうかを確認してください。



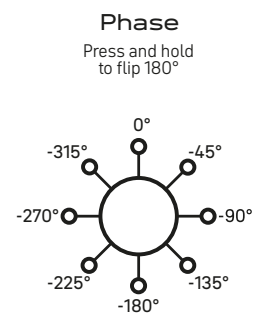
ADAM Audio Aシリーズをお使いの場合は、スピーカーとサブウーファーのLevelノブを0 dBに設定してみてください。適切な音響処理が施された部屋では、ほぼ正確にレベルが揃うはずです。

7. サブウーファーの設置 と位相設定

音は波として伝わるため、スピーカーやサブウーファーの設置場所や距離によっては、リスニング・ポジションに音が届くタイミングがずれることがあります。位相キャンセル（打ち消し）が生じることがあります。特に、サブウーファーが再生する低音域の波長の長い波は、この影響を受けやすくなります。



サブウーファーの設置位置とPhase（位相）設定は、リスニング・ポジションでの音



の届き方に大きく影響します。

Phase設定を調整すると、接続されたスピーカーに対して、サブウーファーの動作タイミングを遅らせることができます。スピーカーの音波が到達するタイミングに合わせて、サブウーファーの音がリスニング・ポジションに正確に到達するように調整できます。

たとえばPhaseを「0°」に設定すると、サブウーファーとスピーカーの位相が完全に一致し、それぞれがまったく同じタイミングで

前後に振動します。一方「180°」ではサブウーファーの動きが反転し、スピーカーと完全に逆位相のタイミングで振動します。

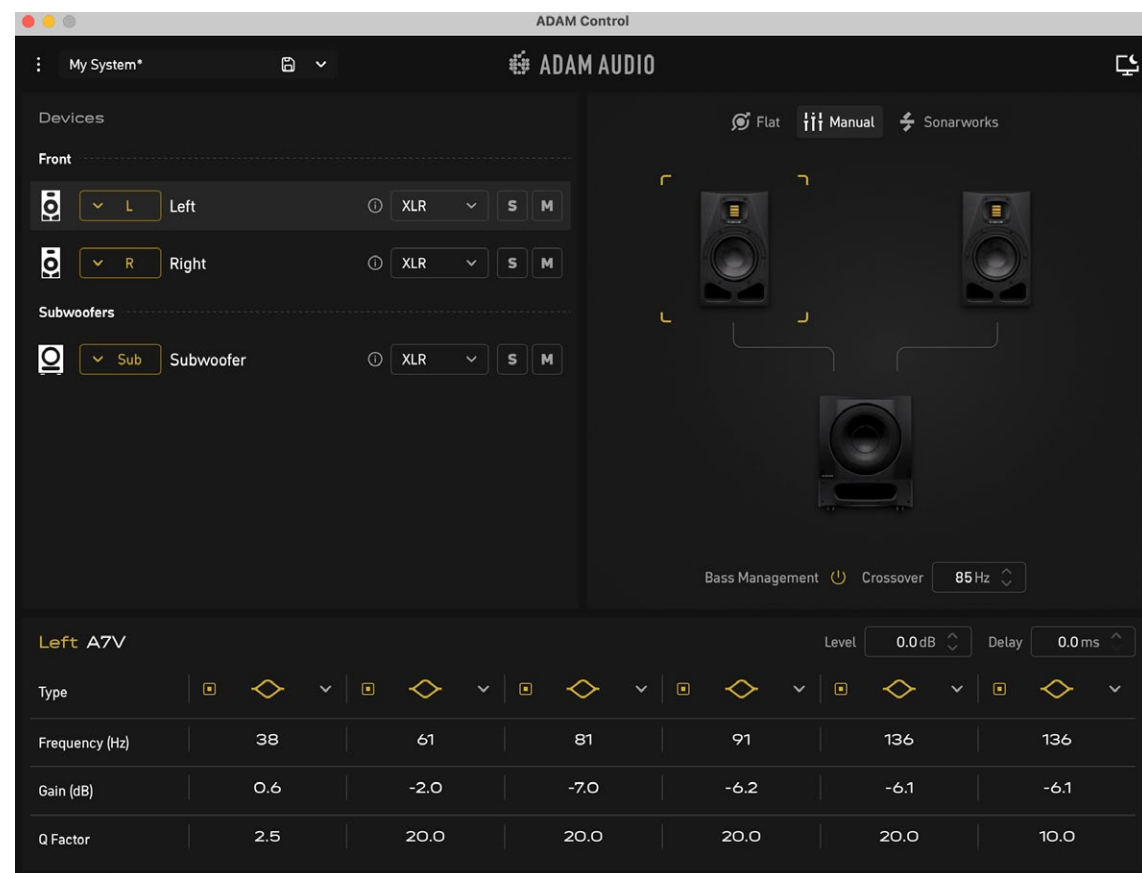


Sub8 PROおよびSub10 PROでは、Phase設定を45°刻みで調整できます。ボタンを長押しすると、現在のPhase設定が180°反転します。これは、極性反転とも呼ばれる動作です。

8. キャリブレーションとネットワーク接続

Sub8 PROおよびSub10 PROの拡張機能には、

ADAM Audio製品の管理およびキャリブレーション専用ソフトウェアADAM Controlからアクセスできます。



ADAM Controlの利用を開始する手順は以下の通りです：

1. 以下のURLから、MacまたはPC版のADAM Controlソフトウェアをダウンロードします。
<https://downloads.adam-audio.com/home>
2. ADAM Controlをインストールしてアプリケーションを起動し、基本的な操作を確認します。
3. サブウーファーをADAM Controlに接続するには、イーサネット・ポートを備えたコンピューターとイーサネット・ケーブルが必要です。ネットワーク・スイッチを使うことで、複数の機器を同時にネットワーク接続できます。

ADAM Controlは、主に以下の4つのセクションで構成されています：

→ **Devices** ウィンドウには、ネットワーク上で検出された接続済み機器が表示されます。ここでは、機器の識別や名前の変更、特定のセットアップで使用する機器の管理が行なえます。

→ **Layout** ウィンドウでは、実際の配置に合わせて、システム構成を視覚的に表すレイアウトを作成できます。

→ **Calibration** ウィンドウでは、以下の2つの方法でサブウーファーを詳細に調整できます。

1. **Manualタブ**では、4バンドのパラメトリックEQを使用して、サブウーファーのキャリブレーションを行えます。各バンドでは、周波数、ゲイン、Q、フィルター・タイプを変更でき、詳細な調整が可能です。
2. **Sonarworksタブ**では、SoundID Referenceアプリケーションを使用してシステムのキャリブレーションが行なえます。インポート可能なファイルを作成するには、まずSoundID Referenceアプリケーションでスピーカー・キャリブレーション・ファイルを生成する必要があります。生成後にエクスポートしたキャリブレーション・ファイルは、ADAM Controlにインポートし、システム内のサブウーファー（およびAシリーズ・スピーカー）に直接送信できます。適用したフィルターは、別のSoundID Referenceフィルター・セットを読み込むか、キャリブレーション・モードを「Manual」に変更するまで有効なままになります。

→ アプリケーション画面の左上にて、**Global Settings (グローバル設定)**にアクセスできます。ここでは、特定のキャリブレーション・プロファイルやスピーカー・システムの設定を保存できます。キャリブレーション設定はサブウーファーおよびスピーカーのDSPに直接保存されるため、機器をネットワークから切断したり、電源を入れ直したりしても設定が失われることはありません。新しいバージョンが利用可能になった場合は、この画面からファームウェアを簡単にアップデートできます。

9. トラブルシューティング

サブウーファーから信号が出ない、不要な干渉やノイズが発生するなどの問題が生じた場合は、ADAM Audioまたはお近くの販売代理店にお問い合わせいただく前に、まず以下の基本的な項目をご確認ください。

サブウーファーまたは接続したスピーカーから音が出ない、または音声が歪んでいる：

- 入力セクターで、正しい入力ソースが選択されていることを確認してください。これはよく見られる問題です。
- まず、問題がどこで発生しているかを切り分けてください。システム内のすべてのサブウーファーおよびスピーカーで音が出ない、または信号が歪む場合は、音源機器側に問題がある可能性が高くなります。一方、特定のスピーカーまたはサブウーファーだけに問題がある場合は、その機器自体、接続ケーブル、または信号経路内の該当チャンネルに原因がある可能性があります。
- 信号ソースを確認してください。サブウーファーをできるだけ信号ソース機器に直接接続して確認します。サブウーファーより前段の信号経路に接続されているミキサーやプロセッサーなど、別の機器が原因の可能性もあります。
- 配線やケーブルを確認してください。可能であれば、問題なく動作することが分かっている別のケーブルと交換して確認します。

サブウーファーから音は出ているものの、ブーンという音やハム・ノイズ、パチパチというノイズなど、不要なノイズが断続的に発生する場合：

- 携帯電話、無線ルーター、電源装置、電動モーター、ヒーターなど、問題の原因となる電磁干渉がサブウーファーの近くにないか確認してください。

これらの項目を確認しても問題の原因が特定できない場合は、機器の修理が必要な可能性があります。その場合は、ADAM Audioまたはお近くの販売代理店にお問い合わせください（販売店の一覧については、<https://www.adam-audio.com>をご覧ください）。

10. メンテナンス

- サブウーファー内部には、お客様ご自身で修理できる部品はありません。
- 清掃する際は、本体の電源を切り、電源ケーブルを取り外してから行ってください。
- サブウーファーの清掃に液体を使用しないでください。
- キャビネットの清掃には、清潔で乾いた糸くずの出ない布のみを使用してください。

11. 技術データ

詳細な技術仕様および測定グラフについては、以下のSub8 PROおよびSub10 PRO製品ページをご覧ください。 <https://www.adam-audio.com/en/subwoofers/>

12. 輸送時のご注意

輸送に備えて、梱包材は保管しておいてください。元の梱包材がない場合、機器を安全に輸送するための十分な保護が難しくなります。不適切な梱包によって生じた輸送中の損傷について、ADAM Audioは責任を負いかねます。

13. 規制関連文書

型式認証、適合宣言、および環境関連声明に関する各種証明書は、以下のADAM Audio Sub8 PROおよびSub10 PRO製品ページでご確認いただけます。

<https://www.adam-audio.com/en/subwoofers/>

14. ノート

ADAM AUDIO GMBH

ベルリン、ドイツ

T +49 30-863 00 97-0

Sub8/10 PRO マニュアル © ADAM Audio GmbH 2026

本書に記載される情報に誤りが無いよう万全を期しておりますが、内容の誤りや記載漏れについて
ADAM Audio GmbHは責任を負いません。

すべての仕様は予告なしに変更されることがあります。

WWW.ADAM-AUDIO.COM

